

北陸独自水素ビジョンを

高岡 廃アルミ活用、検討会議

中日

アルミの廃棄物から水素を発生させ、発電などに使う取り組みを広めようと、企業などによる「北陸アルミ水素将来ビジョン検討会議」が三十一日、富山県高岡市内で発足した。会議は十月中旬に理想の将来像を示す「北陸アルミ水素ビジョン」を発表する。



あいさつするアルハイテックの水木伸明専務(右)と富山の川口清司教授(左)富山県高岡市で

水素は発電などに使われるときに二酸化炭素(CO₂)を排出しない特徴があり、「クリーンエネルギー」として近年、注目を集めている。国は昨年末、水素による発電コストの将来目標などを定めた「水素基

本戦略」を発表した。県アルミ産業協会によると、アルミ建材の生産額と建材などに活用されるアルミ押し出し材の生産量はいずれも富山が全国一位。北陸地方が廃アルミを生かした水素エネルギーの産地に

なる可能性がある。

初会合が同日開かれ、県内の自治体やメーカーの担当者ら十八人が出席。座長に選ばれた富山大学院理工学研究部の川口清司教授(工学)はあいさつで「北陸独自の水素ビジョンをつくり出したい」と述べた。事務局を務める資源エネルギーシステム開発のアルハイテック(高岡市)の水木伸明専務はあいさつで「水素社会に向けた設備投資で北陸地方は都市圏から後れ

を取っている」と指摘した。

三協アルミ(同市)の技術開発統括部技術部の野村信明さんが講演し、「製造過程で出る廃アルミを活用するポテンシャルは大いにある」と話した。

アルハイテックはトナミホールディングス(同市)など八社が出資して二〇一三年に設立。アルミを張り付けた紙パックからアルミを仕分け、特殊なアルカリ溶液と化学反応させ水素を

生み出す施設を開発したほか、水素を生み出す電源不要の小型装置を開発した実績がある。(阿部竹虎)

アルミから水素エネ

あひ

検討会議発足 来月将来ビジョン

富山県内のアルミやエネルギー関連企業などによる北陸アルミ水素将来ビジョン検討会議が31日設立され、高岡市の県産業高度化センターで初会合を開いた。アルミから水素を発生させ、エネルギーとして利用する社会システムの構築を目指す。

冒頭、呼び掛け人の水木伸明アルハイテック専務と川口清司富大大学院教授があいさつした。野村リサー

チ・アンド・アドバイザリーの高橋浩明主任研究員が「水素エネルギー分野での新ビジネスの動向」と題して講演。三協立山三協アルミ社の担当者らがアルミや水素社会をテーマに発表した。

検討会議では、アルミや

エネルギー関連企業など約20人が出席した。アルミ缶や建築廃材から水素を発生させる装置を用い、水素ステーションで燃料電池自動車に供給したり、燃料電池への充電に用いたりする将来ビジョンが示された。10月に取りまとめる。

廃アルミで水素社会

検討委発足 北陸のビジョン策定

水素社会の実現に向け、北陸の産業や特色を反映させた将来像を描く「北陸アルミ水

素将来ビジョン検討会議」が発足した。10月まで計3回開いてビジョンを策定し、水素エネルギーの普及・促進を加速させる。

31日は高岡市オフィスパークの県産業高度化センターで第1回会合を開き、関連企業や自治体から約20人が出席した。写真。呼び掛け人で廃アルミから水素を生む小型装置を製品化したアルハイテックの水木伸明専務が「北陸の特色を生かせば、アルミ水素社会の実現の可能性は大きい」とあいさつ。川口清司富山大



大学院理工学研究部教授が座長に就いた。

事務局側がビジョン案を示した。地域で盛んなアルミ産

業に着目し、廃材で水素を製造して燃料電池車や非常電源で活用するなど「廃棄物とエ

ネルギーの地産地消」を目指す考えを説明した。今後、メンバーの意見を基に改良を加える。

高橋浩明野村リサーチ・アンド・アドバイザー主任研究員が「水素エネルギー分野

の新ビジネスの動向」と題して講演。富山水素エネルギー導入促進協議会や北陸グリーンエネルギー研究会、三協立山三協アルミ社の関係者がそれぞれの取り組みを発表した。

水素社会の検討会発足

3県の産学、アルミ活用へ

アルミを有効活用した水素社会のビジョンづくりを目指す「北陸アルミ水素将来ビジョン検討会」が31日、発足した。

大学や企業などからの参加者による意見交換を行い、10月にも水素利用の将来像をわかりやすく示したビジョンを発表したいとしている。

会議の呼びかけ人は、

富山大の川口清司教授、金沢星稜大の新広昭教授と資源リサイクルを手がけるアルハイテック（富山県高岡市）の木伸明代表取締役専務の3人。北陸3県の大学、

企業や北陸グリーンエネルギー研究会といった関連組織などが参加した。

環境対策や未利用エネルギーの活用などについて参加者の意見を吸い上げながら、アルミに特化して具体的な形で水素利用について示せるビジョンの策定を目指す。

様々な場で使えるように、アルミの有効活用のサイクルを示した図の作製も検討する。

31日に高岡市で開かれた初の検討会議では、座長に選ばれた川口教授が「アルミ産業が盛んな北陸の特性を用いたアルミ水素の将来ビジョンを描いていきたい」とあいさつした。